

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2012/05/01

欧州発のリスクにも警戒

通貨ペア	基調		ページ数
ドル/円	➡	6月FOMCを睨んで 予想レンジ: 77.50 ~ 82.00 円	2-3
カナダ/円	➡	加・米経済指標睨み 予想レンジ: 77.80 ~ 83.30円	4-5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



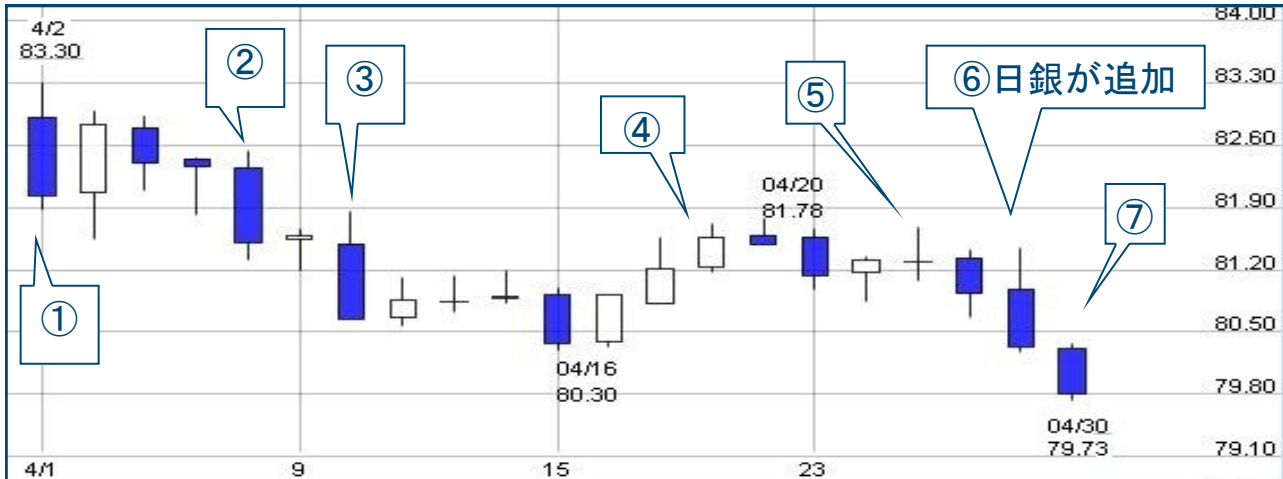
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD / JPY

ドル/円 4月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	82.92円	83.30円	79.73円	79.81円



①	2日、日銀短観の大企業製造業業況判断DIが-4と予想(-1)よりも弱かった事や、期初の仲値公示に向けたドル買いを背景に、ドル/円は83.30円まで上昇した。しかし上値は重く、その後欧州株の軟化を背景にクロス円が弱含んだ他、米長期金利の低下を背景にジリジリと下落した。
②	6日、米3月雇用統計が事前に市場予想(失業率:8.3%、非農業部門雇用者数:20.5万人増)より良い結果になるとの観測が広がり、82.55円まで上昇した。しかし、同雇用統計は失業率は8.2%と予想外に改善したものの、非農業部門雇用者数は12.0万人増と予想を下回ったことから、81.31円まで急落した。
③	10日、一部の緩和期待に反して日銀が資産買入等基金の規模を据え置く(65兆円)と発表すると、円高が進行。さらに、その後白川日銀総裁が記者会見にて「次の会合での決定に予断を持つべきではない」と追加緩和期待を牽制したことで円買いに拍車が掛かった。さらに、スペイン・イタリアの国債利回り上昇を受けてリスク回避の機運が高まり米国債利回りが低下すると、ドル/円の下げが加速した。
④	19日、本邦3月通関ベース貿易収支が826億円の赤字と予想(2232億円の赤字)程悪くなかったため発表後は81.17円まで円高に振れたが、季節調整後の赤字額は市場予想よりも大きかったため、ドル/円は反発。さらに、日銀の白川総裁が「我々は強力な金融緩和にコミットしている」、山口副総裁が「強力な金融緩和姿勢の下で必要に応じて適切な措置を取る」等と述べたことで、その後も円安が進行した。
⑤	25日、米連邦公開市場委員会(FOMC)は声明で「経済は向こう数四半期間緩やかに成長し、その後次第に上向くと予想」との楽観的な景気見通しを示した。これを受けてドル/円は上昇。さらに、FOMCメンバーの政策金利見通しにおいて、前回2人いた2016年予想が0人になり、2014年予想が増えたことを受け、81.69円まで値を伸ばした。しかし、米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長が記者会見で「FOMCは緩和において力強く積極的」「必要に応じてバランスシートの追加拡大措置を講じる全面的な用意がある」等、追加緩和の可能性を改めて示すと、ドル売りが強まり、ドル/円は上げ幅を縮小した。
⑥	27日、日銀が「資産買入等基金を5兆円増額」と発表すると、予想の範囲内とされ、一旦は80.40円台まで急落。ただ同基金については共通担保資金供給オペを5兆円減額し長期国債の購入を10兆円増額という内容だった上、購入対象を「2年以下」から「3年以下」に拡大との点が伝わると、すぐに81.40円台まで急騰した。しかしその後、白川日銀総裁の「上向きのモメンタムは大事にしたいが毎月緩和していくということではない」との発言を受けて追加緩和観測が後退。円買い戻しが活発化した。さらに米第1四半期GDP・速報値が前期比年率+2.2%と予想(+2.5%)を下回ったこともドル/円を押し下げた。
⑦	30日、米4月シカゴ購買部協会景気指数が56.2と市場予想(60.0)を下回りドル売りが強まると、ドル/円は79.73円の安値をつけた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

USD / JPY

今月のポイント

2012年4月のドル/円相場は79.73円～83.30円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約3.7%の下落(ドル安・円高)となった。この月は、月初に発表された米雇用統計が市場の期待ほど良好ではなかったことからドル売りが先行。さらに、スペインを中心とする欧州債務問題についての不安によって全般的にリスク回避ムードが強まると、ユーロ円主導でドル/円でも円高が進む場面も目立った。日本でも追加金融緩和観測が広がっていたため、80円台前半では底堅さを見せていたが、日銀が追加緩和を実際に行った後に白川日銀総裁の発言によってさらなる追加緩和期待が後退すると、米第1四半期GDP・速報値の市場予想よりも弱めの結果を受けたドル売りに堪えられず、80円を割り込んで引けた。

4月の米連邦公開市場委員会(FOMC)は事実上の金融政策についての決断先送りとなった。次回6月の会合まで、米連邦準備制度理事会(FRB)の次の一手を巡る観測がドル/円の主な手掛かり材料になってくるだろう。重要なのは米国の主要経済指標、そしてFOMC要人らによる発言になってこよう。これらを受け、追加緩和観測、あるいは6月で終了するツイスト・オペ延長などの観測が強まればドル売り要因に、ツイスト・オペがそのまま終了になるとの観測が強まればドル買い要因になる見通しだ。

なお、月初の全般的なムードは、欧州の問題などを背景にリスク回避志向気味。日銀による一段の追加金融緩和観測が後退した状態が続けば、未だ追加緩和観測の残るドルに対して円が上昇する傾向が強まることもあり得る。欧州発の諸問題の様子や日本側の要人発言などにも合わせて見て行くべきだろう。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 77.50～82.00円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
5/1(火)	4月米ISM製造業景況指数		FOMC議事録(4月24・25日分)
5/2(水)	4月米ADP全国雇用者数	5/17(木)	1-3月期日GDP・一次速報
5/3(木)	4月米ISM非製造業景況指数		5月米フィラデルフィア連銀景況指数
5/4(金)	4月米雇用統計	5/22(火)	4月米リッチモンド連銀製造業指数
5/10(木)	3月日経常収支	5/23(水)	4月日通関ベース貿易収支
	3月米貿易収支		4月米新築住宅販売件数
5/11(金)	4月中国消費者物価指数	5/24(木)	4月米耐久財受注
	4月米生産者物価指数	5/28(月)	日銀金融政策決定会合議事要旨(4/27分)
	3月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値		4月米消費者信頼感指数
5/15(火)	4月米消費者物価指数	5/31(木)	第1半期米GDP・改定値
	4月米小売売上高		5月米シカゴ購買部協会景気指数
5/16(水)	4月米住宅着工件数		
	4月米鉱工業生産		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

カナダ/円 4月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	83.24円	83.67円	80.16円	80.78円



① 3日、米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録にて「労働市場は改善した」「数人のメンバーは景気の勢いを失われれば追加緩和が必要との認識を示したが、人数は1月会合より減少した」などと示されると、ドル/円が急騰し、つれてカナダ/円も83.67円まで上昇した。

② 5日、スペイン財政に対する懸念から同国債利回りが大きく上昇する中、欧州株が下落。リスク回避の動きが強まると、カナダ/円は一時82円を割り込んで下落した。しかしその後、加3月雇用統計で、失業率が7.2%に改善(前回値、予想値ともに7.4%)した上、雇用ネット変化が8.23万人増と予想(1.05万人増)を大幅に上回る好結果となると、カナダ/円は83.09円まで大幅に反発した。

③ 10日、日銀金融政策決定会合で金融政策の現状維持を発表し、その後の白川総裁の会見でも追加金融緩和を明確に示唆しなかった。一部に緩和観測が台頭していたことから円が全般的に買い戻されるとカナダ/円は81円前半まで軟化。その後も、イースター休暇明けの欧州市場でスペイン国債の利回りが上昇した事を背景にリスク回避の動きが続き、NYダウ平均株価が200ドルを超える大幅下落となると、カナダ/円は80.30円まで下落した。

④ 17日、国際通貨基金(IMF)が世界経済の成長率見通しを上方修正した事などを背景にリスク回避の動きが巻き戻されるとカナダ/円は81円台を回復。その後、カナダ中銀(BOC)が金融政策の据え置きと同時に発表した声明で「現在の大規模な金融政策刺激を控えめながら一定程度解除することが適切となる可能性」とした事を受けて早期利上げ観測が浮上すると、81.84円まで上値を伸ばした。

⑤ 20日、「国際通貨基金(IMF)の融資基盤を4000億ドル以上増加させる」などとするG20財務相・中央銀行総裁会議の声明草案が伝わると、欧州株やユーロ/円の上昇につれてカナダ/円は82.48円まで上昇。しかし、加3月消費者物価指数が前月比+0.4%、前年比+1.9%といずれも予想(+0.5%、+2.0%)を下回る伸びにとどまると30銭ほど反落した。

⑥ 25日、米連邦公開市場委員会(FOMC)が公表した経済・金利見通しがややタカ派的だったことからドル/円が上昇すると、カナダ/円は82.96円まで上値を伸ばした。しかし、その後米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長が「必要ならば追加緩和を躊躇しない」などと発言した事を受けてドル/円が一転して下落すると、カナダ/円も反落した。

⑦ 30日、加2月国内総生産(GDP)が前月比-0.2%と予想(+0.2%)に反して低下した事を受けてカナダドル売りが活発化。その後、米4月シカゴ購買部協会景気指数が予想を下回った事などを背景にドル/円が約2ヶ月ぶりの安値となる79.70円台まで下落すると、カナダ/円も80.62円まで下落した。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

今月のポイント

4月のカナダ/円相場は80.16円～83.67円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約2.7%の下落(カナダドル安・円高)となった。上旬にはスペインの財政懸念からリスク回避の流れが強まり、16日には80円台前半まで下落。その後、カナダ中銀(BOC)のタカ派声明を受けて利上げ観測が浮上した事に加え、IMFの融資基盤強化や米企業の好調な決算発表などを背景にリスク回避の動きが後退した事から25日には82円台後半まで値を戻したが、30日には加経済成長の減速に加え、米追加緩和観測を背景としたドル/円の下落もあって80円台に押し戻された。

カナダ中銀(BOC)は、4月17日に発表した声明で「現在の大規模な金融政策刺激を控えめながら一定程度解除することが適切となる可能性」として、近い将来の利上げを示唆した。早ければ次回6月5日の会合で利上げを発表するとの見方もあるが、足元では3月の消費者物価指数や2月の国内総生産(GDP)が下振れるなど、BOCの見立てほど加経済は回復していない可能性もある。このため、8日発表の加4月住宅着工件数や11日発表の加4月雇用統計、18日発表の加4月消費者物価指数の結果が注目されよう。また、カナダは地理的にも経済的にも米国に近く、米経済の動向がカナダドルに与える影響は小さくない。4日の米4月雇用統計や15日の米4月小売売上高などの米景気指標にも注目となる。

5月のカナダ/円相場は、加・米両国の景気回復期待が高まれば、4月高値の82.96円を上抜ける可能性が高まる一方で、両国景気の減速懸念が台頭すれば200日移動平均線が位置する78円前後まで下落する可能性もあるだろう。その他、スペインの財政問題やフランス・ギリシャの政治情勢についても国際投資家の「リスク許容度」という観点から注目しておきたい。(神田)

(予想レンジ:77.80～83.30円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
5/1(火)	4月米ISM製造業景況指数	5/22(火)	4月米中古住宅販売件数
5/2(水)	4月米ADP全国雇用者数	5/23(水)	4月日本通関ベース貿易収支
5/3(木)	4月米ISM非製造業景況指数		日銀金融政策決定会合(22日～)
5/4(金)	4月米雇用統計		4月米新築住宅販売件数
	4月加Ivey購買部協会指数・季調済	5/24(木)	4月米耐久財受注
5/8(火)	4月加住宅着工件数	5/29(火)	5月米消費者信頼感指数
5/11(金)	4月加雇用統計	5/31(木)	5月米ADP全国雇用者数
5/15(火)	4月米小売売上高		第1四半期加経常収支
5/16(水)	4月米住宅着工件数		第1四半期米GDP・改定値
	4月米鉱工業生産		
	FOMC議事録(4月24・25日分)		
5/17(木)	1-3月期日本GDP・一次速報		
5/18(金)	4月加消費者物価指数		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。